

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察注意報について

令和5年度病害虫発生予察注意報第1号を発表したので送付します。

令和5年度病害虫発生予察注意報第1号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 メイチュウ類 (イネヨトウ及びカンシャシンクイハマキ)
- 3 発生地域 南大東島

4 注意報発令の根拠

令和5年4月中旬に南大東村において新植春植および株出ほ場で芯枯茎率調査を行った結果、新植春植で11.6%、株出で20.4%といずれも発生程度は「多」であった。また、発生ほ場率は100%であった。(図1、2)



図1 芯枯れの様子



図2 ほ場全体の様子

5 発生生態および被害

(1) メイチュウ類共通

- a 被害ほ場およびイネ科雑草が発生源となり、ほ場に侵入する。
- b ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れ(図3)を起こす。

(2) カンシャシンクイハマキ (図4)

- a 沖縄では年6～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉や茎に1～数卵ずつ産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は200～500卵に達する。
- c 被害はほ場内に散在的に発生する。

(3) イネヨトウ (図5)

- a 沖縄では年5～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は400～700卵に達する。

c 初期被害はほ場周縁部で見られ、ほ場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。

6 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場および周辺の除草を徹底する。
- (2) 春植えおよび株出しでは、発芽または萌芽揃期から芯枯れを防止するため、食入初期の幼虫を想定して薬剤による予防散布を行う。
- (3) 乳剤を使用する場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し、降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- (4) 薬剤防除後、2～3週間において再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (5) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。

※農薬の使用にあたっては、ラベルをよく読み、登録内容を確認して正しく使用する。



図3 芯枯茎



図4 カンシャシクイハマキ幼虫



図5 イネヨトウ幼虫

★詳しくは沖縄県病虫害防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0908-82-4933
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>